ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

# ソンコdeソンコ

Vol.130

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ

## ウウェランカラプ(挨拶)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)

お正月の楽しみのひとつ年賀状。親戚や友人、お世話になった方々に新しい年を迎える挨拶の言葉を添えて送ります。そんな書面での挨拶から、握手やお辞儀のように動作を伴う挨拶など、場所や状況、立場によっていろいろな挨拶の方法がありますよね。

札幌発の特急列車に乗ると、「イランカラプテ」で始まる車内アナウンスが流れます。「イランカラプテ」はアイヌ語の挨拶の言葉で、こんにちはやおはようと同じ意味で使われますが、本来は正式な場で男性が使う挨拶言葉。例えば、家を正式に訪問する際は、炉を挟んで家主と対座し、胸の前で両手を擦り合わせながら左右に動かし、掌を上にして上下させる、カムイ(神)への挨拶、オンカミ(拝礼)と同じ動作を交わし、敬意を表す言葉として「イランカラプテ(ご挨拶申し上げます)」と挨拶します。格式ある特別な言葉を節にのせ、迎えてくれた喜びや感謝、健康を祝い、家族の息災を尋ねるなど互いに口上を述べあう挨拶を「ウウェランカラプ」といいます。

また、親しい間で交わす気軽な挨拶に「〜ヘ」があります。例えば、年上のお姉さんである優子さんに会ったら「クサポヘ(姉さん、久しぶり)」と挨拶すると、優子さんが「クマタキヒヘ(妹、久しぶり)」と返すというとっても短い挨拶言葉です。他にも、数年ぶりに会った女性同士が向き合って、互いに手を擦り合い、頭や肩、背中を擦り、抱き合うなどして無事を確かめ合う「ウルイルイェ」という挨拶も。「ウルイルイェ」の最後には右手の人差し指で鼻の下を左から右へ撫で下し、静かに「ハープ」と言葉を添える「ライミク」や「エトゥフカラ」、「ハプケ」と呼ばれる女性の正式な挨拶で終るといいます。

アイヌプリ(アイヌの風習)での挨拶もたくさんありますが、ニュージーランドのマオリのエカシ(おじいさん)から受けた「ホンギ」というマオリ伝統の挨拶はとっても印象的でした。互いの額と鼻を合わせておこなうもので息を交換し合い、尊敬の意を表すのだといいます。はじめてのホンギは緊張でドキドキでしたが、エカシの長く白い髭を蓄えた風貌が、祖父に似ていて懐かしい感覚だったのを覚えています。世界中がたくさんの素敵な挨拶で溢れ、互いを敬う心が広がり、争いのない幸せな暮らしとなることを祈るばかりです。 J

イラスト/山丸ケニ

次回のテーマは「モユク(タヌキ)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間
JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター「トゥレッポん」

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やまるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。